

安田喜憲編

魔女の文明史

A5 上製 480頁 本体6800円



「魔女」とはなにか、なぜ生まれたのか？ 中世ヨーロッパで熱狂的に行われた「魔女狩り」への誘惑と「魔女裁判」の嵐の再来を回避するための方策は？
森を焼き払い、「魔女」を抹殺してきた人類の不幸を繰り返さぬための今日的な課題として、民俗・社会・比較文化・心理・教育・女性・環境・医学・文学など多角的視点で碩学17名が取り組む《魔女学大全》。

* 「国際日本文化研究センター」における共同研究の成果を待望の単行本化*

【目次より】

序論：アニミズム・ルネサンス（安田喜憲）

第 部 魔女熱狂と魔女裁判

第1章 魔女とは

魔女と女と死（黒川正剛）

フランスの魔女・日本の魔女（篠田知和基）

第2章 魔女裁判

魔女裁判（上山安敏）

気候・気象と魔女裁判（井上正美）

第3章 魔女の秘薬とは

魔女と古代ゲルマン信仰（高橋義人）

ヨーロッパ民間伝承薬と魔女狩り（牧 純）

第4章 魔女と動物の関係

魔女はなぜ山羊を好きなのか（松田義幸）

第5章 魔女と病気の関連

魔女と心の闇（豊田園子）

病気と魔女の周辺を探る（中元藤茂）

第 部 魔女幻想と女性原理

第6章 魔女と大地母神

魔女のルーツを西洋古典文学にさぐる（西村賀子）

第7章 魔女と妖精

妖精信仰と魔女裁判（辺見葉子）

フランスの魔女と妖精と聖母マリア（長野晃子）

第8章 魔女と娼婦

「魔女」・「娼婦」・「十九世紀フランス」（杉村和子）

第 部 魔女迫害と地球環境問題

第9章 東洋の自然と人間の関係

プーナの魔女たち（立川武蔵）

蛇巫女から至高の女神へ（吉野裕子）

アイヌの世界観と動物の世界（山田孝子）

第10章 魔女迫害と自然破壊の超克

魔女を殺し自然を破壊する文明の闇からの離脱

（安田喜憲）

編者紹介

安田喜憲（やすだ・よしのり）

1946年生。国際日本文化研究センター教授。理学博士。

専門＝環境考古学

著書：『森を守る文明・支配する文明』（PHP新書）、『森と文明の物語』（ちくま新書）、『環境考古学のすすめ』（丸善ライブラリー）、『蛇と十字架』（人文書院）ほか多数。

ご注文はお近くの書店へお願いいたします

発売：八坂書房

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町1-4-11

TEL. 03-3293-7975～6 FAX. 03-3293-7977